

多文化共生から 人権保育を考える

私たちは、このプロジェクトでいろいろな施設を訪問して多文化共生の現場で話を聞きました。それが、今まで自分たちが考えていた支援は誰のための支援なのか？先の見通しをどのように持って支援をしてきたのか？ということ立ち止まって考える機会になりました。そして、「支援をする」という言葉の中に、支援者中心の発想があったということに気付きました。また多文化共生はコミュニケーションだけの問題ではないことにも気付きました。このリーフレットを通じて「共に生きるため」「つながって生きるため」の本物の支援について、一緒にもう一度考えていけたらと思います。

そのほか、取材の中で学んだことを紹介します。

親子で絵本やおもちゃ、ゲームに親しめる部屋がある。貸出もできるが、親子でその部屋に入らなければ貸し出さない約束になっている。職員と保護者が話をする機会が増えたり、保護者もゲームのルールが分かるので、自宅でも子どもと一緒に遊べるようになる。
(めぐみ保育園)

保育所(園)や幼稚園の年長のときは、最年長として扱われているが、小学校1年生になると最年少として扱われる。育ちの連続性を考えたとき、小学校の先生に保育所(園)や幼稚園の保育・教育内容をもっと知ってもらう機会が必要。
(庄野小学校)

幼稚園の保育料は定額であるため、家庭の経済状況によっては保育所(園)から幼稚園に転園することがある。このとき子どもが戸惑わないように保育所(園)と幼稚園の連携・協力は大切。幼稚園でも保育所保育指針を勉強し、教育活動に取り入れている。
(笹川中央幼稚園)

家庭の経済状況等によってブラジル人学校から地元の小学校に転入してくる子どもは、どうしても学校生活への意欲が低い。就学段階で子どもの将来をしっかりと見据えた進路選択への援助が必要。
(笹川西小学校)

アンケートから

2010年度のリーフレットに対して、アンケートを通じて様々なご意見をいただきました。皆様のご意見をもとに、より分かりやすく、より活用しやすいリーフレット作りを目指していきます。

会議の中で読み合わせをし、様々な取組をしている園のことを知った。

多文化共生について、自分が知らなかった面を認識することができてよかった。

まとめにあったように、全ての保育に共通している大切なことだと思いました。

園全体で協力していく必要があると実感しました。

「学びなおし」

多文化共生保育を扱って3年目になる今年のキーワードは、「学びなおし」でした。「学びなおし」は、unlearnの訳語で、「学びほぐし」や「学び捨てる」等々と訳されている言葉です。偏見であったり、ステレオタイプであったり、誰しもある種の凝り固まった考え方を持っています。それらは、経験等を通して学んできたものですが、もういちど学びなおすことにより、凝り固まった考え方を「学びほぐし」、「学び捨てる」ことができます。

私たちがこの言葉に出会ったのは、とよなか国際交流協会の榎井緑さんとの交流の場でした。こ

の言葉に出会ったとき私たちは、様々な現場に赴き、様々な人たちの話を聞いてきた今回の取組自体が「学びなおし」であったと感じました。私たちが、支援だと思っていたこと、マイノリティのためにしていると思ってきたことが、本当にマイノリティの人たちのためのものだったのかと、もう一度「学びなおし」、「学びほぐす」経験となりました。

多文化共生保育には唯一の正解はありません。絶えず模索、試行していくしかありません。その営みを支えるのが「学びなおし」であり、絶えず「学びなおし」、「学びほぐし」、「学び捨てる」ていくしかないのではないかと考えています。

長澤 貴 (鈴鹿短期大学)

このリーフレットのバックナンバーは、三重県人権教育研究協議会のホームページからダウンロードできます。

<http://www2.ocn.ne.jp/~sandokyo/>

- ▶2006年度/「節分・雛祭りを人権保育の視点で考える(中間報告)」
- ▶2007年度/「節分・雛祭りを人権保育の視点で考える(最終報告)」
- ▶2008年度/「いじめ対応の根っこにあるものは？」
- ▶2009年度/「多文化共生から人権保育を考える①」
- ▶2010年度/「多文化共生から人権保育を考える②」

三重県人権保育推進支援事業

2012年3月発行

三重県健康福祉部
こども局こども家庭室



再生紙を使用しています。植物油インキを使用しています。

多文化共生のなかで 置き去りにされた文化は なかったの？ (在日、沖縄、アイヌ問題など)

多文化共生の取組からはずされていると感じている人たちもいます。

あえて本名を日本名に変え、自分のルーツを隠して生活する人がいます。本名を名乗っていたのに、子どもが日本名を使いたいと言いはじめたのはなぜでしょうか？

日本に来たから 日本にあわせるのがあたりまえなの？

「外国人が日本に金目当てで働きに来ているのだ」「日本にあわせるのが当然だ」といった考えの人もいます。

「日本に来たから日本にあわせるのがいいよね」「その方が幸せなんだよ」という自分たちの見方を押しつけていることもあるようです。そのような問題をどう考えたらいいのでしょうか？



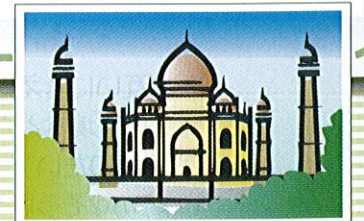
一人ひとり困り感がちがうよ 同じ支援でいいのかな？

見た目ではわかりにくいアジア系や在日の人は、ルーツを隠して生活することが多いことも現状です。一方、外見でわかりやすい外国にルーツを持つ人は「ちがう」と排除され孤立する人もいます。同じ支援でいいのでしょうか？

共生ってなに？

ある保育所(園)では、宗教(イスラム教)上の理由で食事の除去や、行事への参加も保護者と話し合い決めているそうです。

私たちは様々な文化的なちがいをどうとらえているのでしょうか？



本年度見学や取材で
ご協力をいただいた
園・所・学校・団体

- 社会福祉法人 聖和共働福祉会 大阪聖和保育園
- 社会福祉法人 大阪キリスト教社会館 めぐみ保育園
- 社会福祉法人 白蓮福祉会 津愛児園
- 財団法人 とよなか国際交流協会

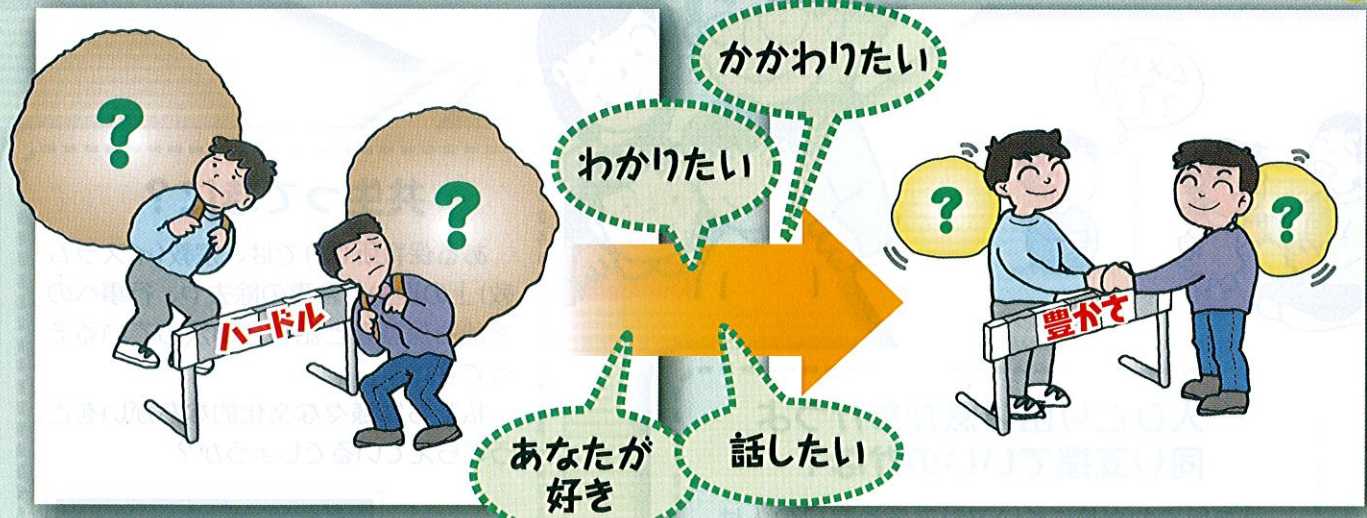
- 四日市市立笹川中央幼稚園
- 四日市市立笹川西小学校
- 鈴鹿市立庄野小学校

目の前のハードル

自分とは違った国、違った文化の中で生まれ育った人と接するとき、あなたは どうしますか？

なんとか相手の事が知りたい、わかりたい、力になりたい…などの思いから自分の知識や経験を駆使しながらかわっていきますか？でもそこに偏った見方や、差別はありませんか？そのかわりの中で、行き詰まりを感じたことはありませんか？

大阪の生野にある聖和保育園に伺った時、在日コリアンの保育士と日本人の保育士とが一緒に保育をしていく中で、いろいろな思いがぶつかり合い、そのたびに話し合っていると聞きました。民族の違い、置かれている立場の違いからいろいろな疑問が生じてくるそうです。様々な葛藤の中、相手との間にハードルがあるように感じるということでした。ついつい自分中心に考えてしまいがちですが、そのハードルは自分の前だけでなく相手の前にもあるんだという事に気づかされました。ハードルっていったい何なのでしょう？



お互いに考え方、感じ方、文化、言葉、ルーツ、育った環境などが違います。その中で、相手と“つながりたい”と思ったとき、どんな事をするのでしょうか？そう思う事で、相手とどんどんかわろうとし、その中で自分が持っていた差別心、偏

見などを徐々に軽くしていけるのではないのでしょうか。そうして、お互いに近づき、つながっていったとき、今までのハードルが、“違いがあること”ってステキだなぁ”と感じられる「豊かさ」に変わるのではないのでしょうか。

相手とつながりたいと思っても、どうすればいいのか、答えを見つける事は簡単ではないかもしれませんが、すぐに“こうしたらいい”というピッタリな答えが見つからなくても、答えを探しながら一緒に歩いていくことが大事だと思います。

「ハウスはあってもホームがない」

空間としての場はあっても、“ここにいていいんだ”と思える場、自分を出せる場にはなっていない。

どうい
こと？



日本語を話せているけれど…
抽象的言語、
学習言語の習得が困難

こんな子がいるよ



見た目も言葉も、
日本人とかわらないよ

例えば…「まる」はわかるが「円」はわからない
「右と左の文章で関係するものを線で結びなさい」
“線で結ぶ”って??

学習面でのつまずき
→わかったふりをして過ごすことを身につけていく

韓流ブームだけど在日は置き去り
本名を名乗りたいけど名乗りにくい社会
例えば…友だちに自分のことを打ち明けたら「そんなの関係ないよ」と返された
→シャットアウトと感じた それ以上話せない

- 疎外感
- 自己肯定感がもてない
- 誇りをもって生きられない

本当に
言いたいことが
言えていない
子・大人が
周りにいるかも
しれません

ここに挙げたのはほんの一例です。

日本語が話せているから、友だちがいるからと、表面的なところを見ているだけではわからない、しんどい状況、生きにくさの現実を、私たちは今回の取組で知りました。未だに日本のあちこちで言われている「いやなら帰れ」の言葉。私たちは、マイノリティの人たちが“ここに”いること、さまざまな思いを、心から受け止めようとしているのでしょうか。

本当の居場所づくりができているのでしょうか。

本当の居場所づくりとは？

- わかってくれる人、心配してくれる人がいる
- 自分は受け入れられていると感じる
- 安心して自分を出せる
- 自分は必要とされていると感じる

ここは
ホッとするな

居場所

また
来たいな

力が
湧いてくる

話をして
よかったな



これらは、すべての人にとって大切なことです

保育所(園)にできること

- 名前大切さを伝えましょう
 - “自分は必要とされている”と感じられる場面、輝ける場面をしかけていきましょう
 - 友だちがいるから楽しい、いろんなことが乗り越えられる、人とつながって強くなっていけることを伝えていきましょう
 - “ここにはこの子がいるよ”と、地域で子どもの存在を知っていける、気に掛け合えるようにしましょう
- 他にできることは……??

学校を卒業し、社会でつまずくことがあると、保育所(園)に戻ってくるという事例がありました。保育所(園)が、マイノリティの人の、安心でき、頼れる場所となっている現実もあることを誇りに感じ、保育所(園)だからできることを、今後も探っていきましょう。